

Think Globally Act Locally (Vol.6)

# ボランティアのすすめ

飛龍祭、中間試験とあわただしいなかで二学期の行事も半分は終了しました。皆さんもほっと一息ついたところでしょう。二期生以下の生徒はもうすぐ校外学習が控えています。まだまだ多くの行事がありますが、ボランティア活動もお忘れなく。夏休みの間に何か活動はできたでしょうか。これからはより過ごしやすい秋の季節になります。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、そしてボランティアの秋！ほんのちょっと踏み出せばあなたと社会のつながりはぐっと近くなります。むやみとかまえてしまう必要はありません。ちょっといいことしてみませんか？

今回も皆さんの仲間の様々な活動を紹介します

## 東京都児童会館にて

5月5日～6日にかけて、東京都児童会館でのイベントの補助として活動しました。将来福祉施設で働く可能性も考え、子供との接し方を学んでおく必要があると思い参加しました。事前に心がけたことは、最低限、怒ったような口調を使わないことです。活動を終えて、気づいたこととして、子供と遊ぶときは、自ら声をかけるというよりは遊んでほしいという仕草を見せてきたら遊んであげるようにすること、笑顔を常に大切にということ、仲間と協力することなどです。

8月15日、18日～26日にかけて、同じく児童会館でのお化け屋敷イベントに参加しました。この活動を通じて感じたことは、子供というのはわずかに年齢が違っただけで大きく異なるので、年齢別の接し方、遊び方、笑わせ方、脅かし方などそれぞれに工夫をしなければならぬということでした。

これらの活動を将来役に立てられるようにしっかりと学んでいきたいと思います。

(高一 男子)

この生徒は自分の活動について詳細なレポートを作成していました。

今回紹介した文章は、そのほんの一部をボランティア委員会のほうで文章化したものです。

## キャンプ指導員 8月19日～21日

妙高自然の家で行われた「小学館レクリエーションリーダーズクラブ」主催のキャンプで参加者のお世話をしました。小1から中1までの幅広い参加があり大変でしたが、子供たちと接した三日間はとても楽しいものでした。次回も参加してキャンプリーダーのプロを目指したいです。

(中一 女子)

## 幼稚園でのボランティア

夏休み中の三日間、保育園でボランティアとして受け入れていただきました。

なぜボランティア活動をしようと思ったかという、進路について悩んでおり、やってみたいことの一つに幼児教育の仕事があったからです。

本を読んで、知識としては仕事は楽しい面ばかりではないということは知ってはいましたが、保育士の仕事を現場で見たり自分でやってみて、園内の衛生や園児にとって危険なものへの気配りなどの大変さや難しさを、実際に体験できました。またそれと同時に、現代の女性の社会進出や幼児虐待問題に当たった保育園などといった児童福祉施設の必要性や、人格形成に関わる教育の仕事に携わる責任の重さなど、考えさせられることは多々ありましたが、急成長する子供を目の当たりにできるやりがいのある仕事であると感じられました。

何より私にとってうれしく、強く印象に残ったのは、私が帰るときに男の子が「お姉ちゃん、また遊んでね!」と走ってきて言ってくれたこと。そんなかわいい子供たちと一緒に成長できる職に就きたいと思うようになり、今回のことを励みに一步一步受験に向けてがんばってみようと思いました。

(高三 女子)

## アメリカの子供たちに、励ましの言葉を送りましょう

皆さんもご存じの通り、ニューヨーク、ワシントンで悲劇的な事件が起こりました。アメリカの子供たちは、私たちの想像をはるかに超える大きなショックを受けており、「学校に行けない」、「外出するのがこわい」といった症状が今でも出ています。ジュニア・アチーブメントでは、そんなアメリカの子供たちにホームページ上から励ましのメッセージを送る活動をしています。

### ----- 書き込み上の要点 -----

<[www.ja-japan.org](http://www.ja-japan.org)> からジュニア・アチーブメント日本本部のホームページに入り、その上部にある「アメリカの子供たちに、君たちから励ましのメッセージを送ろう」というアイコンをクリックすると、メッセージを書き込むページが現れます。名前（イニシャルでも構いません）、年齢、住んでいる町の名前、励ましのメッセージを書いて「Send」のボタンを押します。書き込みはすべて英語でお願いします。

当たり前のことですが、政治的・宗教的な内容、冗談・中傷等は許される行為ではありません。(アチーブメント本部の判断で削除されます)

養護老人ホーム「白寿荘」(ボランティア部を中心として何度かお手伝いをさせていただいています)が発行する「季刊 白寿荘」の中で、本校のボランティア活動に対する謝辞をいただきました。